

大総務第 83 号
令和 5 年 2 月 2 日

大阪市外郭団体評価委員会
委員長 野村 祥子 様

大阪市長 松井 一郎
(担当：総務局行政部総務課法人グループ)

諮問書

大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例（平成 25 年大阪市条例第 10 号）第 7 条第 1 項に規定する外郭団体である公益財団法人大阪国際交流センターによる令和 4 年度及び中期目標の期間を通じた経営評価（対象事業活動の実績）の結果並びに所管所属である大阪市経済戦略局による大阪市外郭団体の事業経営の評価等に関する指針を定める規程第 4 条第 3 号イ及び第 6 条第 1 項第 1 号イの規定に基づく当該経営評価の審査の結果について、同条例第 7 条第 4 項の規定に基づき、別紙により諮問します。

令和4年度 事業経営評価

団体名	(公財) 大阪国際交流センター	所管所属名	経済戦略局
-----	-----------------	-------	-------

中期目標	(1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容
	本市に居住する外国人住民を、公的支援の受け手という視点に加えて、主体的に大阪をともにつくる担い手と位置づけ、外国人住民のもたらす多様性を活かし、活力あふれる魅力あるまちづくりをめざすというビジョンのもと、外国人住民が、地域社会の一員として地域と交流し、安全・安心で快適に暮らし活躍できる多文化共生社会を実現していくための取組を進めていくこと。
	(2) 中期目標期間
	令和2年12月1日～令和6年3月31日
	(3) 中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態
	国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め地域社会の一員として共生することができる社会の実現に向けて、外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動すること（※）について、当該地域社会の住民の理解が深まり、当該活動を促進しようとする意識が高まっている状態 ※「外国人住民が多文化共生の担い手として地域社会において活動すること」とは、例えば、外国人住民が地域行事に参加あるいは運営側として参画することなどを通じて地域社会において日本人住民と交流し、自国の文化や習慣などを地域の住民と共有することによって、地域社会における多文化理解を深めるとともに、共に地域社会を担うパートナーとしての意識を醸成していくといったことなどをいう。

外郭団体の自己評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価	
	令和4年度、全ての指標において、目標値を達成することができ、順調に事業実施を行うことができた。 指標Ⅰ、Ⅱについては、活動機会の提供という、コロナ禍においての実施が難しい内容であったが、連携先との協力等によりともに目標値を上回ることができた。 指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴについては、社会情勢やニーズを踏まえて取組を進め、目標達成につなげることができた。指標Ⅲについては、ロシア語やウクライナ語ができる達人の発掘、指標Ⅳについては、外国人住民が日本で生活していく中で当惑しやすいテーマについての情報発信の強化、指標Ⅴについては、大阪市内で住民数の増えているベトナム人及びフィリピン人の団体との連携を実現できた。	
	最終目標達成見込み	最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について
	ア ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	外国人住民（留学生を含む）が地域社会の担い手となり活躍するとともに、日本人住民と外国人住民が自ら交流し連携するよう取り組んでいる。2年目を終えた現在、各指標とも順調に達成できている。最終年度においては、引き続き、外国人コミュニティ、大学等との連携やネットワークの構築に努めるとともに、区役所、大阪市社会福祉協議会等の地域団体とのネットワークを更に強化し、市全域において多文化共生を進められるよう努める。
当該事業年度の評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価	
	団体の個別の取組においては、全ての指標において目標値を達成しており、順調に事業実施を行い成果を上げていると評価できる。 市における中期目標の達成状況の測定にあたっては、外国人の地域活動に関する意識をアンケートにより調査し結果を得たが、当年度の目標の68%に比して、76.9%と目標を上回った。引き続き着実な事業実施に努められたい。	
	助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市内外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）	

●最終年度の前年度【中期目標の期間を通じた評価】

外郭団体の自己評価 中期目標の期間を通じた評価 市の評価	中期計画に定めた指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価
	令和3年度、4年度を通じて、全ての指標において目標を達成しており、順調に事業を展開できている。指標Ⅰについては、大阪市社会福祉協議会等の協力を得て、最終目標値の76.9%まで達成してきている。指標Ⅱについては、令和3年度、令和4年度とも目標値を超えて、留学生に活動の機会を提供することができている。指標Ⅲについては、広報・周知を強化した結果、最終目標値の84.6%まで達成してきている。指標Ⅳについては、令和3年度、令和4年度とも目標値を超える件数の情報発信を行うことができた。指標Ⅴについても、大阪市内で住民数の増えているベトナム人及びフィリピン人の団体と連携するなど、最終目標値の55.6%まで達成してきている。
	中期計画に定めた指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価
	団体の個別の取組においては、全ての指標において目標値を達成しており、順調に事業実施を行い成果を上げていると評価できる。 市における中期目標達成状況の測定結果では、令和3年度は目標の67%に比して73.8%、令和4年度は目標の68%に比して76.9%と二年連続で目標を上回り、また数値も向上がみられる。取組は有効であり、継続した推進を期待する。
	助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一 1

(※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容	
	【外国人住民等の地域社会における活動機会の提供】 「多文化共生の担い手として地域社会において活動する」意欲のある外国人住民にその活動の機会を提供し、外国人住民のエンパワーメントを支援する。令和2年度に市民局の委託により作成した「多文化交流お助けガイド」を活用し、区役所や社会福祉協議会をはじめとした地域団体と連携し、外国人住民等が担い手となって、地域社会において日本人住民との交流を積極的に進め、顔の見える関係構築をめざす。特に将来の高度外国人材である留学生は、地域において外国人住民と日本人住民の相互理解や交流の橋渡し役としても期待できるため、留学生にも積極的に活動の機会を提供する。	

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容			【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容		
令和2年度に市民局の委託により作成した「多文化交流お助けガイド」を活用し、地域社会において日本人住民との交流を積極的に進める機会を提供し、顔の見える関係構築をめざす。令和3年度同様、大阪市・区の社会福祉協議会をはじめとした地域団体と連携し、外国人住民等が担い手となって、大阪（日本）の生活での体験談や地域の日本人住民に望むことについて話をし、交流の際のヒントなどを提供する「多文化交流会」を開催する。 今年度は、財団の取組みを広く周知するため、年度当初に大規模なシンポジウムを開催するとともに、地域団体からの参加を募り、実際に体験してもらうことにより地域を拡げて「多文化交流会」を開催することをめざす。			新型コロナ感染再拡大で開催が厳しい時期もあったが、大阪市社会福祉協議会の協力を得て、2月28日にZoomも活用したハイブリッドにより西区社会福祉法人連絡会と共催で「多文化交流会」を開催した。また、6月12日には、令和4年度のキックオフイベントとして、大規模シンポジウム「日本で暮らす～外国ルーツの子どもとその家族～」を開催し、第3部で「多文化交流会」を実施した。7月16日のネットワーク型市民セミナー「防災ワークショップ」でも「多文化交流会」をプログラムに組み込み実施したほか、キックオフイベントに参加した区社会福祉協議会を中心に調整を進め、11月26日に西成区、12月7日に阿倍野区でも「多文化交流会」を開催した。またウクライナ避難民支援を通じて大阪経済大学とつながりができ、12月9日に当大学で避難民の声を聞く多文化交流会を開催した。 （日本人参加者延べ134名、外国人スピーカー延べ48名）		
指標Ⅰ	外国人住民が参加や参画を通じて地域社会において日本人住民と交流する機会となる事業の実施回数				
	R2	R3（4月～12月）	R4	R5【最終】	
目標値		3件	5件	5件	
実績値		4件	6件		
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった			
【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容			【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容		
将来の高度外国人材である留学生は地域において外国人住民と日本人住民の相互理解や交流の橋渡し役としても期待できるため、積極的に財団の事業で活動できる機会を提供する。特に、日本人学生との交流の機会の少ない留学生が、日本人とのつながりを持つことができるよう、留学生が講師となり世代の近い高校生と英語や韓国語会話を教えながら交流する事業を実施する。 令和3年度は天王寺区内の公立高校（4校）を対象にしたが、3校からの参加にとどまったため、今年度は4校からの確実な参加をめざし実施する。			多文化共生社会の中、グローバルに活躍できる人材育成の手段の一つとして、高校生の外国語会話能力の向上において留学生が講師となり、高校生と交流する機会として英語と韓国語の講座、GULS（Global Understanding with Local Skills）を開催した。開催時期は、1月～3月、5月～12月の間で、120件（1時間/件）実施した。天王寺区内の公立高校（4校）からの参加は3校だった。留学生は、英語：中国人（3名）、インドネシア人（2名）、サウジアラビア人（1名）、ベトナム人（1名）、韓国語：韓国人（3名）の計10名がローテーションを組んで担当した。		
指標Ⅱ	留学生に活動の機会を提供した件数				
	R2	R3（4月～12月）	R4	R5【最終】	
目標値		75件	100件	100件	
実績値		90件	120件		
当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった			

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
	当該事業年度の達成状況について					
	指標Ⅰ、Ⅱともに目標値を達成することができた。 指標Ⅰについては、大阪市社会福祉協議会・区社会福祉協議会との連携により、参加団体や外国人スピーカーを広く募れたことや、6月12日のキックオフイベントを契機に地域団体とのつながりも持てたことで、コロナ禍の影響を受けながらも、目標を達成することができた。また、大学での開催につながったり、他の事業の中でも多文化交流会の手法（日本人と外国人が意見交換する場面を設けるなど）を取り入れるなど、拡がりを持たすことができた。 指標Ⅱについては、4校との調整の結果、1校から参加者を得ることができず、昨年度同様3校からの参加にとどまったものの、昨年度に比べて参加者が増加し、留学生の活動機会の増加につなげることができた。今後、天王寺区内に限らず広く募集する方向で、検討していく。					
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について					
指標Ⅰについては、新たな共催団体の確保や新規エリアの開拓に取り組むとともに、多文化交流会をきっかけに地域住民が自ら交流を深めていけるよう、多文化交流ガイドブックの活用についても更に働きかける。 指標Ⅱについては、広く諸大学・学校の留学生に参加を呼び掛け、更に多国籍で多分野を専攻する留学生の招集を図り、より魅力的な講座の企画に努める。また、人気のある講座のクラス数を増やすなど、ニーズを踏まえて講座の改善を図っていく。以上により、引き続き、参加高校や参加生徒の拡大に努める。						

市の審査	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
	指標Ⅰ、Ⅱともに目標値を達成した。指標Ⅰについて、社会福祉協議会や大学などネットワークをもつ団体との連携により効率的に取組を展開できている点、指標Ⅱについて、受講者のニーズも踏まえ拡大に向けた取組を検討している点から、今後も順調な実施が期待できる。順調であるとの団体の自己評価は妥当である。					
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
全ての指標において目標値を達成しており、外国人住民等が地域社会において活動する機会を着実に提供していると評価できる。外国人が地域社会の一員として地域と交流し活躍できる社会の実現に向け、有効な取組を着実に進めているものと考えられる。指標Ⅰ、Ⅱとも、引き続き、地域社会に影響力がある団体等を巻き込むことを意識した取組の推進を期待する。						

●最終年度の前年度【中期目標の期間を通じた評価】

中期計画達成状況	指標Ⅰ	外国人住民が参加や参画を通じて地域社会において日本人住民と交流する機会となる事業の実施回数 進捗率：実施回数/13件											
		R2	中期計画 進捗率	R3 (4月～12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率				
	目標値		%	3件	23.1%	5件	61.5%	5件	100.0%				
	実績値		%	4件	30.8%	6件	76.9%		%				
	中期計画期間における具体的な取組内容（実績）												
	令和3年度は、大阪市社会福祉協議会等の協力を得て、地域のニーズにあったテーマ（「子育て」や「文化の違い」等）を設定して、10月～12月の間に市内4か所で開催した。また、外国人スピーカーについては、4月に募集チラシを作成・配布し、6月には応募者14人を対象にオンライン説明会を開催したほか、財団事業に参加した外国人を広く勧誘し、登録者を確保した。 令和4年度は、キックオフイベントとして、大規模シンポジウム「日本で暮らす～外国ルーツの子どもとその家族～」を開催し、第3部で「多文化交流会」を実施した。また、西区、西成区、阿倍野区でも「多文化交流会」を実施するとともに他の事業の中での実施や大学での実施にもつなげることができた。												
	指標Ⅱ	留学生に活動の機会を提供した件数											
		R2	中期計画 進捗率	R3 (4月～12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率				
	目標値		—	75件	—	100件	—	100件	—				
	実績値		—	90件	—	120件	—		—				
	中期計画期間における具体的な取組内容（実績）												
	多文化共生社会の中、グローバルに活躍できる人材育成の手段の一つとして、高校生の外国語会話能力の向上及び留学生との交流を図る英語と韓国語の講座として、GULS (Global Understanding with Local Skills)を開催した。令和3年度は90件開催し、9名の留学生が講師として参加した。令和4年度は、120件開催し、10名の留学生が講師として参加した。両年とも、天王寺区内の公立高校（3校）の生徒が参加した。												

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【中期計画期間】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
	中期計画期間の達成状況について					
	指標Ⅰ、Ⅱとも順調に目標を達成している。 指標Ⅰについては、大阪市社会福祉協議会・区社会福祉協議会との連携や、地域団体とのつながりの構築により、参加団体や外国人スピーカーを広く募れたことで、コロナ禍の影響を受けながらも、目標を達成することができた。 指標Ⅱについては、天王寺区内の公立高校（4校）のうち、3校からの参加にとどまったが、両年とも目標件数を達成することはできた。今後、市内全域を対象とするなど、対象の拡大を図っていく。					

市の審査	中期計画に対する進捗状況 【中期計画期間】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
	指標Ⅰ、Ⅱとも順調に目標を達成している。指標Ⅰについて、コロナ禍による影響を受けながらも、効果的なネットワークの構築が功を奏し、目標を達成している。また指標Ⅱについても、現状に甘んじることなく今後の拡大をめざしている。以上を踏まえ、順調であるとの外郭団体の自己評価は妥当である。					
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
	全ての指標において目標値を達成しており、外国人住民等が地域社会において活動する機会を着実に提供していると評価できる。外国人が地域社会の一員として地域と交流し活躍できる社会の実現に向け、有効な取組を着実に進めているものと考えられる。取組の継続した推進を期待する。					

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一2

(※分野ごとの評価)

中期計画

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

【多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信】

「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の運営により、自国の文化紹介や日本での生活情報の発信ができる外国人住民等の「達人」を発掘する。また、財団は、達人及び達人のスキルを活かした活動（多文化共生についての理解促進に向けた活動等）をプラットフォームを通して発信する。

合わせて、プラットフォームを広く周知し、地域社会へアプローチする。

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容

【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容

今年度は、外国人住民が増えている国を中心に在阪の総領事館や外国人コミュニティに働きかけ登録者を確保するとともに、引き続き交付金事業や、受託事業などで財団と関わりを持った外国人にも働きかけ、新規登録者を確保する。

在阪総領事館や外国人コミュニティを中心に「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の紹介を強化するとともに、財団事業に参加する外国人にも達人登録を広く呼びかけた。

また、達人の活躍の場につながるよう、達人紹介パンフレットを令和4年8月に刷新し、最新登録者の情報を発信した。

外国人住民等で構成する「外国人コミュニティ連携事業委員会」を2月、4月、9月に開催し、達人の更なる獲得に向けても意見交換を行った。

指標Ⅲ

情報発信に関するスキルを有する人材（達人）登録者数（新規登録者）

	R2	R3（4月～12月）	R4	R5【最終】		
目標値		6名	10名	10名		
実績値		9名	13名			

当該年度の目標達成状況

a (i)

《達成状況》

a：目標達成：(i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった

b：目標未達成：(i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容

【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容

「達人」の中でも、特に大阪（日本）での生活情報を動画で発信できる人を確保し、テーマを決めて積極的に発信することで、広く市内の外国人住民が、日本での生活になじめるよう引き続きサポートするとともに、今年度は「達人」が自ら企画・実施するイベント情報などの情報発信活動を支援し、日本人等が多様な文化に触れる機会を提供する。

達人による生活情報の発信として、子育て環境の違い、日本の授乳室、妊娠・出産にかかる費用や手続、災害への備え、日本での育児における注意点などの動画21件を発信した。また、「文化の違い」について伝えたいことがあっても、動画作成のスキルがない外国人も多いことから、5月29日に初めて達人同士が情報交換できる場として「達人交流会」を開催した。交流会では、達人が昨年度作成した動画を鑑賞し、今後の作成のヒントにもらった。これから情報発信活動を行おうとする外国人に、既に活動している達人がサポートを申し出るなど、達人同士の新たなつながりを作ることでもできた。また、達人の実施するイベント情報についても5件発信することができた。

指標Ⅳ

ウェブサイトを通じた情報の発信件数

	R2	R3（4月～12月）	R4	R5【最終】		
目標値		15件	20件	30件		
実績値		16件	26件			

当該年度の目標達成状況

a (i)

《達成状況》

a：目標達成：(i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった

b：目標未達成：(i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容

【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容

「アイハウス多文化交流プラットフォーム」を広く周知し、外国人住民等の活動を紹介するため、今年度は、ウェブ上で連携できるサイトなどの情報を収集し、情報発信団体を確保するとともに、引き続き、国際交流、多文化共生等を推進する団体や財団の持つネットワークを活用し、連携団体を発掘することで、当財団及びその活動の認知の向上を図る。

2025年大阪・関西国際博覧会の開催に向け、当財団も「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーとして登録し、外国人のエンパワメントを呼びかけた。また、Philippine Community Coordinating Council (PCCC) 及び在大阪ベトナム青年学生協会 (VYSA OSAKA) を連携団体として発掘し、「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の発信協力を得た。

指標Ⅴ

情報発信を連携して行う活動団体や事業者の発掘件数

	R2	R3（4月～12月）	R4	R5【最終】	R6	R7
目標値		2団体	3団体	4団体		
実績値		2団体	3団体			

当該年度の目標達成状況

a (i)

《達成状況》

a：目標達成：(i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった

b：目標未達成：(i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった

年度計画達成状況

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
	当該事業年度の達成状況について					
	指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとも目標値を達成することができた。 指標Ⅲについては、ウクライナ避難民の受入れなどの社会情勢の影響もあり、ロシア語やウクライナ語ができる達人など、新たな人材の獲得ができた。指標Ⅳについては、外国人住民が日本で生活していく中で当惑しやすいテーマである「子育て」や「災害への備え」について情報発信を行った。指標Ⅴについては、大阪市内で住民数の増えているベトナム人及びフィリピン人の団体と連携することができたので、今後も様々な形で協働していきたい。					
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について					
市の審査	指標Ⅲは、引き続き在阪総領事館や外国人コミュニティに働きかけるとともに、外国人を雇用する企業にも対象を拡げ、より広い人材発掘に努める。 指標Ⅳについては、引き続き外国人住民に関心の高い分野の情報発信を行うとともに、引き続き達人自らが企画・実施するイベント情報の発信支援に努め日本人等が多様な文化に触れる機会を提供する。 指標Ⅴについても、避難民・難民支援やEXP02025といった社会の動きに合わせ、新規の連携先を獲得する。					

市の審査	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
	指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとも目標値を達成している。指標Ⅲについて、社会情勢を踏まえ、ウクライナ避難民支援に団体として注力する中で、支援活動を担うことのできる人材を獲得しており評価できる。指標Ⅳ、Ⅴについて、外国人住民のニーズを踏まえて発信の取組を実施してきており評価できる。以上より、順調との外郭団体の自己評価は妥当である。					
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
市の審査	全ての指標において目標値を達成しており、多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信を着実に実施していると評価できる。外国人住民が安全・安心で快適に暮らし活躍できる多文化共生社会の実現に向けて有効な取組を行っていると考えられる。指標Ⅲについては、社会情勢も踏まえて取組を進めているとともに、今後働きかける対象を拡大していくなど、戦略的に取組を展開していると評価できる。指標Ⅳについては、外国人住民のニーズも踏まえつつ、日本人の意識醸成という視点もある。また指標Ⅴについても、社会情勢を踏まえ今後の動きを計画している。以上より、取組は有効であり、継続した推進を期待する。					

●最終年度の前年度【中期目標の期間を通じた評価】

中期計画達成状況	指標Ⅲ	情報発信に関するスキルを有する人材（達人）登録者数（新規登録者） 進捗率：既登録者数/26名										
		R2	中期計画 進捗率	R3 (4月～12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率			
	目標値		%	6名	23.1%	10名	61.5%	10名	100.0%			
	実績値		%	9名	34.6%	13名	84.6%		%			
	中期計画期間における具体的な取組内容（実績）											
	令和3年度では、日本語教室や登録ボランティア等、財団事業の参加者を中心に登録依頼や達人登録チラシの配布を行った。また、財団が連携する外国人コミュニティや外国人が在籍する団体・学校等へも新規登録者の獲得に向けて協力を依頼した。 令和4年度では、在阪総領事館や外国人コミュニティを中心に「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の紹介を強化するとともに、財団事業に参加する外国人にも達人登録を広く呼びかけた。											
	指標Ⅳ	ウェブサイトを通じた情報の発信件数										
		R2	中期計画 進捗率	R3 (4月～12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率			
	目標値		—	15件	—	20件	—	30件	—			
	実績値		—	16件	—	26件	—		—			
	中期計画期間における具体的な取組内容（実績）											
	令和3年度では、「子育て」関連の動画のほか、コロナ禍での生活の工夫やワクチン接種についての動画を作成し発信した。「子育て」のテーマについては、未就学児向けのものだけでなく、学校の成績表の見方といった就学後の子育てに役立つ知識についても発信した。 令和4年度では、子育て環境の違い、日本の授乳室、妊娠・出産にかかる費用や手続、日本での育児における注意点など、令和3年度に引き続き「子育て」をテーマとしたほか、災害への備えについても動画を作成し、合計21件の動画を発信した。また、達人の実施するイベント情報も5件発信することができた。											
	指標Ⅴ	情報発信を連携して行う活動団体や事業者の発掘件数 進捗率：既発掘件数/9団体										
		R2	中期計画 進捗率	R3 (4月～12月)	中期計画 進捗率	R4	中期計画 進捗率	R5【最終】	中期計画 進捗率			
	目標値		%	2団体	22.2%	3団体	55.6%	4団体	100.0%			
	実績値		%	2団体	22.2%	3団体	55.6%		%			
	中期計画期間における具体的な取組内容（実績）											
	令和3年度では、大阪商工会議所ホームページからのリンク設定のほか、公益財団法人都市活力研究所のホームページで財団のコミュニティ活動に関するヒアリング概要等が紹介された。また地域振興をテーマとした専門誌「コロンブス」で当事業が紹介されたことも、今後の連携先の獲得に向けた周知機会となったと考えている。 令和4年度では、2025年大阪・関西国際博覧会の開催に向け、当財団も「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーとして登録し、外国人のエンパワメントを呼びかけた。また、Philippine Community Coordinating Council（PCCC）及び在大阪ベトナム青年学生協会（VYSA OSAKA）を連携団体として発掘した。											

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況 【中期計画期間】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
	中期計画期間の達成状況について					
	指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとも順調に目標を達成している。 指標Ⅲについては、財団事業の参加者に呼びかけたり、在阪総領事館や外国人コミュニティを中心に「アイハウス多文化交流プラットフォーム」の紹介を強化したり、達人パンフレットの刷新を行うことで、延べ22名の達人の登録につなげることができた。 指標Ⅳについては、外国人住民にとって身近なテーマである「子育て」や「災害への備え」などの動画のほか、達人のイベント情報など26件の情報発信をすることができた。また、動画作成のヒントを得たり、達人同士の繋がりを作る機会として、達人同士の交流会も開催した。 指標Ⅴについては、大阪商工会議所ホームページへのリンク設定、2025年大阪・関西国際博覧会の「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーへの登録のほか、大阪市における外国人住民数も多いフィリピン系、ベトナム系団体を発掘することができた。					

市の審査	中期計画に対する進捗状況 【中期計画期間】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
	指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴともに目標を達成している。指標Ⅲについては、働きかけの対象が広がりを見せてきている。指標Ⅳについては、ニーズを踏まえ情報発信を進めている。指標Ⅴについては、社会情勢を踏まえ連携相手の発掘に努めている。以上より、順調であるとの団体の自己評価は妥当である。					
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
	全ての指標において目標を達成しており、着実に多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信を実施している。指標Ⅲ、Ⅳについては令和4年度時点で目標を大きく上回っており、コロナ禍にあった2年間において目標を上回る進捗率を記録していることは評価できる。また指標Ⅴにおいても発信効果の高い相手方を連携相手として発掘していると考えられ、財団が実施する活動の認知向上に効果的な取組を進めていると言える。よって、取組は有効であり、継続した推進を期待する。					